

話題の焦点

糖化ストレス研究会

普及啓発を図る。

ヒト体内における「糖

GSケア認定資格を立ち上げ

糖化ストレス研究会

医・食の現場で知見の活用へ

糖化ストレス研究会(米井嘉一理事長)は、このほど、GS(グライコー・テイフストレス)糖化ストレス)に関する正しい知識を医療や食の現場で活用できる「GSケア認定資格」制度を立ち上げた。管理栄養士や栄養士、医療従事者、食品関連企業などを対象としており、養成講座の実施を通じて食育・知育の両面から糖化の仕組みから実践的な内容まで講義し、

化は、老化を促進する危険因子の一つであり、II型糖尿病や認知症、皮膚の老化などを引き起こす要因となる。同会は学術・研究団体として「G

ycative Stress Research」誌をオンラインで定期発行し、糖化ストレスに関する研究成果を国内外に発信している。

食品成分の研究では、マシノBの糖化ストレス軽減を介した肌の水分量保持に関する臨床研究の論文収載などで実績を持つ。近年にかけて、これらの成果を医・食の現場で積極活用すべく普及啓

環として今年9月にGSケア認定資格制度を立ち上げた。同制度は、GSに対する正しい知識を身に付ける者を対象とした「GS

取得単位・30単位以上を必要とする。単位は養成講座の受講のほか、同会が主催する講演会への参加で取得できる。制度開始に伴い実施するGSケアの講座では、「食育」で適正な栄養摂取、蛋白/アミノ酸の役割、脂質管理、全粒穀物の効用、食品中AGESの役割、腸内細菌叢の育成法などについて、また「知育」では「睡眠の質」と耐糖能、脳腸関連、動物性脂肪依存症等に関する最新情報を提供する予定わが国の保険・福祉への将来の貢献を目指す。

発を進めており、その一環として今年9月にGSケア認定資格制度を立ち上げた。同制度は、GSに対する正しい知識を身に付ける者を対象とした「GS

取得単位・30単位以上を必要とする。単位は養成講座の受講のほか、同会が主催する講演会への参加で取得できる。制度開始に伴い実施するGSケアの講座では、「食育」で適正な栄養

摂取、蛋白/アミノ酸の役割、脂質管理、全粒穀物の効用、食品中AGESの役割、腸内細菌叢の育成法などについて、また「知育」では「睡眠の質」と耐糖能、脳腸関連、動物性脂肪依存症等に関する最新情報を提供する予定わが国の保険・福祉への将来の貢献を目指す。

取得単位・30単位以上を必要とする。単位は養成講座の受講のほか、同会が主催する講演会への参加で取得できる。制度開始に伴い実施するGSケアの講座では、「食育」で適正な栄養